

平成30年度 学校評価結果報告書

学校法人 日高学園
聖ヶ岡幼稚園

当園ではこの度、平成30年度の学校評価として、教職員自己評価及び、関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、評価結果について話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。

この評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

<目指す子ども達の姿>

明るく素直で思いやりがあり自主性のある子

目指す子ども達の姿のために、日常の保育活動やカリキュラムの編成において、次の3点を常に意識して取り組みます。

- ①感謝の気持ちで心から挨拶ができること
- ②協調性を基本にした自己主張ができること
- ③我慢ができ、やり遂げる力をつけること

あいさつなど基本的な生活習慣を幼児期のうちにしっかり身につけておくことは、これからの子ども達の成長の上で大きな糧となります。時には厳しく叱り、時には論し、強く抱きしめる。私たち教職員は、本当の親子のような情緒的な信頼関係を築けるように努めます。

II. 今年度の重点目標

- 教育課程・指導計画の充実及び周知
- 公開保育研修の実施・充実
- 教職員の資質向上
- 全体会議の活性化
- 安全管理体制の強化

III. 取組み状況と今後の課題

自己評価項目		取組み状況
1	教育課程・指導計画の充実及び周知	A 今年度は教職員間で互いにコミュニケーションを密にとろうとする意識が強く感じられた。先輩の判断に頼るばかりではなく、経験の浅い先生は自分ならどう判断して実行するのかという観点と、判断力を養うねらいを持って指導した。また個々の先生が物事を柔軟に捉えて考えることが出来るような取組みを意識して行った。分からないことや決め事があれば、その都度学年で話し合っで決める等、相談機会を持ちアドバイスしあっている。その結果、日頃から学年同士でもコミュニケーションを図って共有でき、良く連携が取れていた。クラス毎で意見や考えを出し合う事で、学年の今の状況やこれからの課題が明確になり、指導計画や目標を定めることに繋がった。活動の中でうまくいったことのみならず、失敗したことやどう改善してきたのかという点も引き続き共有していきたい。
2	公開保育研修の実施・充実	A 先輩や他の人の保育を見て学ぶとともに、自分自身の保育についてアドバイスをもらい、その違いを客観的に捉えることが出来た。また、良い点は取り入れ悪い点は改善に向けて、正しい指導方法や悩みを共有して解決策を導き合うことでより良い保育への実践が出来ている。公開保育をきっかけとして、改めて子ども達の状況を把握し、自らの指導の振り返りに繋がっている。先生の経験年数を問わず、公開保育では互いに言葉がけや進め方を学んだり改善点を見つけて、その後の反省会では様々な意見交換が生まれ、次に活かせる様な取組みが出来ている。同じ題材を用いて同じねらいを設定しても、保育者の進め方や話し方で子ども達の様子や反応、その後の結果に差異が生じてくる。この事に教職員皆が気づき、体感できたことは非常に意義があり大きな成果を得られた。

平成30年度 学校評価結果報告書

学校法人 日高学園
聖ヶ岡幼稚園

自己評価項目		取り組み状況
3	教職員の資質向上	子どもたちが自身で考えて行動に移せるような保育内容へと、工夫を交えて実践していく。 B
4	全体会議の活性化	発言者が偏らぬよう意見交換しやすい雰囲気づくりを継続し、様々な意見に触れ見識を深める機会として捉えていく。 B
5	安全管理体制の強化	子ども達に避難訓練の意味合いを繰り返し伝えたことで、子ども達は訓練の大切さをしっかりと理解して、訓練に真剣に取り組む姿が見られ、いざという時に速やかに行動出来るようになった。子ども達の年齢に合わせて分かりやすさを意識した言葉がけを行い、安全に避難誘導することを最優先した。今年度は地震や台風などの自然災害を実際に体験し、日頃の訓練の大切さを再認識することが出来た。実際に災害が発生した時の事を想像して、自身で避難経路を瞬時に判断しながら率先して指示を出すようにした。訓練時には案内誘導する者と部屋の細部を確認する者として分担する等、補助としてはどのように動くか担任の先生がスムーズに子ども達を誘導出来るのかを考えて行動した。訓練の重要性や必要性は、今後も紙芝居等を用いて説明を続けていきたい。 A

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 次年度の取り組むべき課題

1	教育課程・指導計画の充実及び周知	教職員自身が日々の活動それぞれの意図や本質を考え、子どもたちの成長に即した指導計画へと応用していく。
2	公開保育の実施・充実	他の教職員の指導方法から自身の保育を振り返り、互いに刺激し学びあう姿勢で取り組む。
3	教職員の資質向上	教職員が視野を広げ知識を深めようとする姿勢を持ち、子ども達の興味や関心を引き出す工夫を行っていく。
4	全体会議の活性化	自らの意見に自信を持つとともに積極性を養い、他の教職員の考えも尊重して耳を傾けていく。
5	安全管理体制の強化	防災頭巾の取扱いを周知徹底させるとともに、教室内外の危険箇所の確認を定期的に行う。

V. 学校関係者の評価

教育目標に掲げる「明るく素直で思いやりがある子」の具現化に向けて、子ども達が自ら体験、活動することの積み重ねを大切にしながら適切に取り組まれていると思います。お友達とともに、「見つける・知る・考える」喜びや楽しさの感性も培う保育カリキュラムの編成に充実が見られます。子どもたち同士でのいたわりや思いやりも重要であり、社会・家庭の影響も大きく、幼稚園との連携も必要となります。聖ヶ岡幼稚園では、園長をはじめ先生方も研修に熱心に取り組まれ、コミュニケーションを通して、積極的に取り組んでいる姿に安心感と感動を抱きます。幼児教育の環境が変化中、常に振り返り反省点を前向きに改善しながら、未来のある子どもたちが「夢」、「思い出」心に刻める園生活を今後も提供していただきたいです。

< 評議員 >

園としての教育目標を念頭に、日々教職員が一致団結して保育活動に真摯に取り組んでいる姿勢は評価できます。先生達の交流も密に行われており、コミュニケーションが良く取れています。何か問題があれば、すぐに対応し解決に結びつける動きが定着しています。子ども達の元気な声、笑顔、態度を引き出せるように、先生方が常に声掛け共に歩んでいる姿には、大変感謝しています。保育の中で教育は大事ですが、何のために話を聞くのか、行動するのかを子どもたち自身が熟慮し、発言する力を継続して養うことができていると思う。安全管理体制も充実しており、訓練時も粛々と機敏に行動出来ています。

< 評議員 >

自己評価についての取組み内容やそれから導き出された問題点に対して適切に評価されています。様々な経験年数の先生がおられる中、子どもや保護者との関係で不安が少ないのは、先生方がご自身の経験や意見から、子ども達や保護者の情報を常に共有されている成果だと思えます。

これまでは非常ベルの鳴り響く避難訓練を怖がっていた子も見られましたが、昨年は実際に台風などの自然災害を体験する場面がありました。その結果、園での訓練や先生のお話や紙芝居で「自分の命を守る」という考えが、小さいながらも子どもたちに根付いたのではないかと考えられ、今後も園全体で安全管理意識を高めていただきたいです。

< 保護者 >

以上